

盛岡みたけ支援学校奥中山校

研究テーマ

「児童生徒の個々の課題に迫る授業づくり
～自立活動の観点をいかした

実態把握を通して～」

(2年次研究の1年目)

1 テーマ設定の理由

これまでの実態把握及び個別の指導計画の目標設定は担任個々の見立てによるところが大きく、根拠の曖昧さが課題として挙げられていた。そこで、一人ひとりの目標や課題をどの職員も共有するための足がかりとして、自立活動の観点での実態把握及び目標設定に取り組むことにした。そして、それらを授業の中に組み込むことで、集団の授業であっても個々の課題に迫ることができると考え、本テーマを設定した。

2 研究の目的

教職員一人ひとりが児童生徒の的確な実態把握を根拠とした個々の課題に迫る授業づくりを行う。

3 研究の内容

2年次研究の1年目にあたる今年度は、自立活動の観点による実態把握と目標設定に全職員で取り組んだ。具体的な授業作りについては、来年度実践する。

(1) 実態把握

自立活動の内容に基づいて学部ごとに実態把握を行った。小学部は全児童(14名)について、中学部は全生徒(7名)について実施した。

(2) 中心となる課題の選定

自立活動の6区分にしたがって整理された実態の中から、中心となる課題を選定した。また、その課題の原因や背景についても、話題として取り上げた。

(3) 目標の設定

中心となる課題に基づいて、個々の目標を設定した。また、その目標は自立活動のどの内容に当たるのかを確認した。

(4) 目標に関する児童生徒の情報交換

目標に関わると思われる児童生徒の様子について学部間で情報交換を行い、それを支援の手がかりとした。

(5) アンケート調査

研究を進める上で、実態把握に関する質問項目について全教職員にアンケートをとり、教職員の実態把握についての意識を確認した。

(6) 研究授業

全校授業研究会を小学部で1回実施した。小学部高学年の特別学級の児童を対象とした生活単元学習の授業を行い、盛岡みたけ支援学校小学部の最上一郎副校長から助言をいただいた。

4 成果

「児童生徒の個々の課題に迫る授業づくり」を考えていく上で、1年次の今年度は、児童生徒の実態把握を自立活動の観点に沿って分類し、個々の課題の共通理解が深まった。担任以外の視点で各児童生徒のことを話し合う機会がもてたことにより、目標について共通理解を進めることができた。

5 講演会

新型コロナウイルス感染症の影響により未実施